

授業概要

本授業では、子どもを対象とした演劇の在り方を学ぶ。子どもを対象とした演劇は大きく次の二つに分けることができる。一つは、子どもの鑑賞を目的としたもの。もう一つは、子ども自身が創造の主体となることを目的としたものである。しかしこれらは単純に分けられるものではなく、幼稚園・保育園で演じられる《ごっこ遊び》や絵本の《読み聞かせ》、エプロン・シアターのように問いかけながら進める《観客参加の演劇》小学校などの発表会で児童が上演する《劇遊び》、《芸術鑑賞》など多種多様な形態が存在する。本授業では、子どもの鑑賞を目的としたもの／創造を目的としたものの両面から「子ども演劇」を取り上げ、それらの歴史・理論、具体的な作品を通じての方法・効果について学習するとともに、実演（実際に演じる）という形式による教育的可能性を考察する。

授業計画

第 1 回	導入：子どもと演劇 なぜ演劇なのか？
第 2 回	子ども演劇の理論と歴史 明治期
第 3 回	子ども演劇の理論と歴史 大正期
第 4 回	子ども演劇の理論と歴史 昭和初期
第 5 回	子ども演劇の理論と歴史 現在の課題と問題点
第 6 回	海外の子ども演劇 欧米
第 7 回	海外の子ども演劇 東アジア
第 8 回	作品鑑賞
第 9 回	子ども演劇の方法と効果 読み聞かせと紙芝居
第 10 回	子ども演劇の方法と効果 エプロン・シアター、パネル・シアター
第 11 回	子ども演劇の方法と効果 人形劇
第 12 回	子ども演劇の方法と効果 ごっこ遊び、劇遊び
第 13 回	子ども演劇の実演 グループ分けと発表準備
第 14 回	子ども演劇の実演 グループ練習
第 15 回	子ども演劇の実演 グループ練習
第 16 回	子ども演劇の実演 グループ発表と合評会

到達目標

演劇という実演形式を通じた子ども教育に関する知識を習得し、実際の効果の理解を深めながら、卒業後に幼稚園・保育園・児童館・小学校などの教育・保育機関で実践を行うための基礎を作る。

履修上の注意

授業では学生に《発表》、《意見交換》、《実演》などを行ってもらう場合がある（実演は履修人数によって講義に変更の可能性あり）。従って、これらに積極的に参加することが望ましい。遅刻は 15 分以内までとし、3 回の遅刻で 1 回の欠席扱いとする。

予習復習

予習：事前に授業内で必要な資料、文献、課題等を配付・指示するので、授業当日までに各自で読んでおくこと。

復習：授業プリントを読み、試験に備えること。また欠席した場合は各自でプリントの穴埋め等を行うこと。

評価方法

評価は①課題レポート＋②試験＋③平常時の授業態度（出席と参加度）を総合して判断する。

テキスト

教科書

授業はプリントを配付して行う。欠席した際は各自でコピーを入手すること。

参考文献

- 歴史の概観に→富田博之『日本児童演劇史』東京書籍、1976年
- 幼稚園・保育園での実演に→中谷真弓『PriPri 中谷真弓のエプロン・シアター —乳児から幼児まで! すぐに作れる実物大型紙つき』世界文化社、2010年